

建設放談 森田 実



題字は著者 (評論家・東日本国際大学客員教授)

275

「奉仕を主とする事業は栄え、
利得を主とする事業は衰える」

(ヘンリー・フォード)

去る5月11日、札幌サンブラ
ザの宮坂建設工業札幌支店主催
の講演会において、私は「戦後
70年と安倍政権の課題」につい
て講演しました。会場には300
の椅子が用意されていましたが、さらに50の椅子が追加され
ました。この講演会が決まった
のはほんの数日前のことです。

この短期間に350名もの参
加者を集めることのできる宮坂
建設工業の底力と組織の強さに
感嘆しました。主として宮坂建
設工業の社員と関連会社の人々
が集まってくださいました。一
般の方もいたようです。
私はタイトルどおりの固い講
演をしましたが、すべての聴衆

の皆さんが最後まで非常に熱心
に聴いてくれました。皆さん、
勉強家です。世界の動き、政治

皆さんが宮坂社長を深く尊敬
し、「世のため人のためにつく
せ」との経営理念のもとに、つ
かりと団結している高潔な意識
をもって理想を追求している集
団であることを理解しました。
この講演において私は、今年
は戦後70年の節目の年であり、
日本の生き方は国際的な関心を

切らうとしていることが、国際
社会から受け入れられるか否か
は、日本の将来にとって極めて
大きな事柄であること、いわゆ
る安倍首相の「歴史認識」の問
題は、非常に重い事柄であり、
2015年8月15日以後、安倍
内閣の国際的立場に異常が起
るおそれがある」と語りまし
た。二兎を追う者は一兎をも得

ている間、宮坂社長の「世のた
め人のためにつくせ」ことが土
木建設業者の仕事だとの強い意
識と、北海道の未来と北海道民
のために奉仕する強靱な意志を
ヒシヒシと感じました。社員と
関連会社の社員を大切にす
る姿勢に「真善美」を感じまし
た。北海道の未来を担う力強い
経営者の存在を感じました。

「世のため人のためにつくせ」との創業者の経営理念を貫く

宮坂建設工業の宮坂寿文社長の旺盛な経営者魂を見ました

経済の流れに、非常に敏感です。
宮坂建設工業、関連会社の社員
の皆さんの社会と政治に対する
意識の高さに感心しました。

講演前、宮坂建設工業の副社
長、専務、常務札幌支店長など
役員の方々と懇談しました。
皆さん、宮坂寿文社長の側近と
いっべき会社の幹部です。この

集めていること、8月15日に発
せられる安倍首相の談話が世界
からどう受け止められるかによ
って日本の国際的立場が決まる
こと、特に今までの日本の政府

が、第二次世界大戦時の日本の
行為について「反省」と「謝罪」
を表明してきたことを、安倍首
相が「反省」のみの強調で乗り

聴衆の皆さんの中には異論をも
っておられる方もおられたよう
ですが、みな紳士・淑女の態度
で聴いてくれました。

私はさらに、講演の終わりに
金融政策と財政政策のバランス
が大切であること、財政政策を
柔軟に展開し、2020年にフ
ライマリーバランスを実現する

ずのおそれ大、なのです。日
本経済も安倍政権も正念場に直
面しています。

講演終了後、宮坂社長と懇談
しました。私は宮坂社長が人間
として発する強い光を感じまし
た。非凡な経営者だと思いま
した。一瞬にして、私は宮坂社長
のファンになりました。懇談し

宮坂建設工業のすべての役
員、社員の名刺には「技術と信
頼で明るい未来を創造する」と
記してあります。そして、常に
「世のため人のためにつくせ」
の93年前の創業者の経営理念を
堅持し続けています。社会貢献
活動も旺盛です。今回の私の札
幌訪問は、宮坂寿文社長と役員
社員の皆さんに深い敬意を感じ
た大変に楽しい旅となりました。
宮坂社長とは再会を約束しま
しました。すべての関係者の心や
さしさに感謝します。
(毎週火曜日掲載)